

短 報

雌花を総状花序につけるゴヨウアケビとミツバアケビ (橋本 皓^a, 猪俣伸道^b)

Akira HASHIMOTO^a and Nobumichi INOMATA^b : *Akebia pentaphylla* Makino and *A. trifoliata* (Thunb.) Koidz. with Racemes of Female Flowers

アケビとミツバアケビの人工交配を試み、F₁ 雑種を育てた中に、雌花のみを総状花序としてつけるゴヨウアケビが出現した (橋本・猪俣 植研 67: 310-311, 1992)。このことから、私たちは天然に分布するアケビ属に、雌株が見つかるのではと期待し調査をしている。これまでのところ雌株は見つかっていないが、図1に示すように、雌花を総状花序につけているゴヨウアケビとミツバアケビが観察された。すなわち、このゴヨウアケビもミツバアケビも一つの株において、伸長したいくつものつるのうち、ある一つのつる上に、下垂する雌花のみからなる総状花序が腋生している。総状花序は一個のこともあるが、一本のつるの先へ向かって、つぎつぎに数個ついているのが見られた。一つの総状花序は、8~十数個の花で構成されていた。図1に見るように、雌花が集団となってついているほかは、雌花のがく片は3、雌

ずいは4~6であり、花は赤紫色または暗紫色を呈し、普通のゴヨウアケビとミツバアケビの雌花と変わりは見られなかった。このような雌花の総状花序をつけているつるには、雄花は着生していなかった。しかし、同一株の若い別のつるには、多数の雄花のみから成る花序がついていたり、上方に多数の雄花、下方には1~2個の雌花がついた花序が見られ、雌株ではなかった。

上記のゴヨウアケビは、大阪府和泉市・河内長野市、和歌山県日高郡印南町の各山地で計3株が認められた。またミツバアケビは、同上の山地で計5株が認められた。標本は国立科学博物館に寄贈している。雌花を総状花序につけるアケビの自生を、私たちはまだ見ていない。

(^a大阪府立看護短期大学, ^b岡山大学教養部生物学教室)

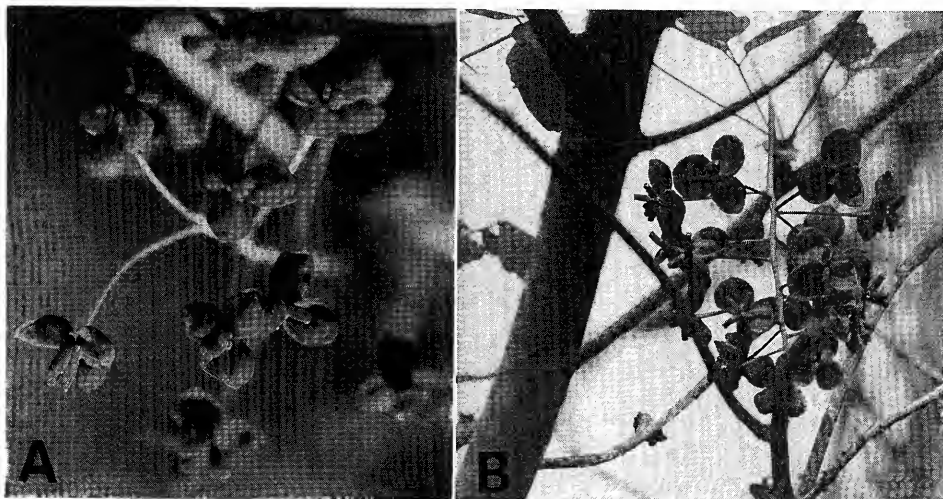


Fig. 1. *Akebia pentaphylla* (A) and *A. trifoliata* (B) with racemes of female flowers.